

# I 患者情報

## 1 総括及び全数把握対象疾患

- 一類～五類感染症
- 新型インフルエンザ等感染症
- 獣医師が届けを行う感染症

## 2 定点把握対象疾患

- (1) 内科・小児科・基幹定点把握対象疾患に関する動向
- (2) 眼科定点把握対象疾患に関する動向
- (3) 性感染症把握対象疾患に関する動向

## 3 鹿児島県の風しん予防対策

- 鹿児島県の妊婦における抗体検査の調査事業



---

## 総括及び全数把握対象疾患に関する動向

(令和4(2022)年1月～12月)

鹿児島県感染症発生動向調査委員会委員長

鹿児島県医師会長

池田 琢哉

---

### 【トピックス】新型コロナウイルス感染症の発生動向

**1月**：オミクロン株の陽性者が急増。

鹿児島県でもオミクロン株の陽性者が確認され、1月8日、奄美大島5市町村に対し県独自の緊急事態宣言が発令された。1月19日、県内全域で「爆発的感染拡大警報」が発令され、1月27日、鹿児島県にまん延防止等重点措置が適用された（3月6日まで）。

感染に不安を感じる無症状の県民を対象とする、県新型コロナウイルス感染症防止対策 PCR 等検査無料化事業を開始した。

**2月**：5歳から11歳までの新型コロナワクチンの接種を開始した。

ワクチン接種は、令和3年2月に医療従事者を対象として開始され、順次、重症化リスクを踏まえて、高齢者、基礎疾患を有する患者、高齢者施設等の従事者、それ以外の者へ接種が進められてきた。

**3月**：令和2年3月26日に鹿児島県内で初めて新型コロナウイルス感染症の届出があつてから2年が経過し、この間の累積届出数は4万例を超えた。（第1波・令和2年5月、第2波・令和2年7月、第3波・令和3年1月、第4波・令和3年5月、第5波・令和3年8月、第6波・令和4年1月）

**6月**：感染者数がゆるやかに減少し、鹿児島県は6月29日「爆発的感染拡大警報」から「感染拡大警戒期間」へと移行した。

**7月**：オミクロン株のBA.5への置き換わりが進み、感染者が急増。7月初旬から第7波の到来となった。鹿児島県は、7月15日「爆発的感染拡大警報」を発令した。

**8月**：鹿児島県は、8月3日「BA.5対策強化宣言」を発令した。8月24日、1日あたりの届出数が過去最多の4,843例となり、この月の届出数も最多の111,910例となった。

8月29日、鹿児島県は、陽性者の濃厚接触者で同居家族などが有症状となった場合に、医師の判断によりPCR検査や抗原検査を行わず、臨床症状で診断する「みなし陽性」の取扱いを当面の間可能とした。

**9月**：9月7日、新型コロナウイルス感染症に感染した患者の療養期間が10日間から7日間へと短縮した。

鹿児島県では、全数把握の簡略化を開始した。これにより、①65歳以上、②入院を要する場合、③重症化リスクがあり、新型コロナ治療薬の投与が必要な場合、又は新型コロナ罹患により新たに酸素投与が必要な場合、④妊婦の感染例が発生届の対象となり、それ以外の感染者は総数、年齢等の簡略化した届出が可能となった。

12月：感染者数が増加，第8波到来となった。令和2年の届出数1,016例，令和3年8,106例，令和4年357,913例となり，令和4年の届出数が県内の届出累積数の98%を占めた。

### 【全数把握対象疾患の概要】

#### ○一類感染症

発生報告はなかった。

#### ○二類感染症

届出は結核のみで，172例の報告があった。前年の241例に比べて69例少なかった。令和元年は353例，令和2年は242例と，4年連続で減少傾向にある。感染対策の徹底，受診控え，外国人の入国が控えられたことなどが原因と考えられる。病型は肺結核が88例，年齢別では80歳以上73例，70歳代27例，60歳代26例と，60歳以上が全体の約73%を占めている。

#### ○三類感染症

届出は腸管出血性大腸菌感染症のみで，35例の報告があった。前年の46例に比べて11例少なかった。月別では6月8例，7月6例，12月5例の順に多かった。血清型別ではO157が19例，O26が7例，O111が4例の順，年齢別では60歳代5例，30歳代・70歳代がそれぞれ4例，5歳・10～14歳・15～19歳・50歳代がそれぞれ3例の順に多かった。保健所別では，鹿児島市10例，志布志市6例，徳之島5例からの報告が多かった。

#### ○四類感染症

つつが虫病76例，レジオネラ症27例，日本紅斑熱22例，重症熱性血小板減少症候群（SFTS）9例，レプトスピラ症6例（前年の届出なし），A型肝炎4例，E型肝炎2例であった。

つつが虫病は前年の82例に比べて6例少ないが，都道府県別の報告数では平成23年から12年連続で全国1位の届出数となる。近年では山中ではなく公園や庭などの市中感染も見られ，外での活動の際は長袖を着用することで防げるので注意を呼び掛けたい。

レジオネラ症は温泉での感染のイメージが強いが実際は1例で，園芸や高圧洗浄で感染する例があり，これらはマスク着用で防げるため，水を使用する外作業の際はマスクを着用していただきたい。

#### ○五類感染症

梅毒141例，急性脳炎19例，カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症16例，侵襲性肺炎球菌感染症15例，後天性免疫不全症候群13例，クロイツフェルト・ヤコブ病・百日咳がそれぞれ5例，劇症型溶血性レンサ球菌感染症，破傷風，侵襲性インフルエンザ菌感染症，アメーバ赤痢，播種性クリプトコックス症，ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）がそれぞれ4例，水痘（入院例に限る）3例の計241例の報告があった。

梅毒は令和2年38例，令和3年56例，令和4年141例と増加傾向にあり，近年急増している。前年同様，鹿児島市以外の地域からの報告も増加している

なお，先天性梅毒は1例の報告があった。

百日咳は5例で，前年より2例多いものの，コロナ禍以前の令和元年728例と比べると，報告数が激減している。

## ○獣医師が届けを行う感染症の発生状況

出水平野では令和4年11月2日以降、12羽のナベヅルからA型鳥インフルエンザの陽性が確認された。その後、11月7日、出水市の野生のナベヅルから高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N1 亜型）が確認され、11月17日、鶏舎内の鶏から同鳥インフルエンザウイルスが確認された。計13例の防疫措置が実施された。

### 【定点報告疾患】

新型コロナウイルス感染症の流行に伴う感染症予防策等の影響により、対象疾患の大きな流行は見られなかった。

感染性胃腸炎は定点医療機関から13,881人（累積定点あたり報告数260.68）の報告があり、前年より404人多かったが、大きな流行は見られなかった。病原体がロタウイルスに限定する感染性胃腸炎について、発生報告は0件。ロタウイルスワクチンが令和2年度に定期予防接種となったことを受け、病原体がロタウイルスとする感染性胃腸炎の発生は抑制された結果となった。

インフルエンザは定点医療機関から180人（累積定点あたり報告数1.98）の報告があり、前年より158人多かった。令和3年に引き続き、大きな流行が認められなかった。

### 【総括】

梅毒は全国的に平成28年ごろから疾患数が増えていたが、令和3年から令和4年にかけて急増（前年比2.5倍増）した。女性では20代、男性では20代から50代にかけて感染者が多く見られる。無症状感染者も潜伏していることが予想され、今後も増加が見込まれるため、注意を呼び掛けたい。

新型コロナウイルス感染症流行に伴う感染対策の徹底により、令和4年も多くの感染症の届出が減少している。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染者が確認されてから、3年が経過し、既存の感染症に十分な免疫を獲得していない子どもの間で感染症（インフルエンザやヘルパンギーナ、RSウイルスなど）が流行することが危惧される。コロナ禍を経て、感染症発生動向調査の重要性が高まるなか、ICT（情報通信技術）を活用して地域毎の流行状況をリアルタイムで把握できるシステムが構築されることを期待したい。

最後に、本感染症発生動向調査事業定点医療機関、並びに全数把握対象疾患のご報告をいただいた医療機関に感謝を申し上げるとともに、今後も感染症の早期発見と早期治療に努めることで、地域への感染拡大防止に尽力していきたい。

## (1) 一類感染症の発生状況

発生報告なし

## (2) 二類感染症の発生状況

令和4年の県内における二類感染症の届出は、結核が172例(男性83例, 女性89例)で、令和3年の241例に比べ、69例少ない届出であった(表1-1-1, 表1-1-2, 図1-1)。病型では、肺結核(88例), 無症状病原体保有者(42例), その他(35例)で、年齢別では、80歳以上(73例), 60歳代(26例), 70歳代(27例)と、60歳以上が全体の約73%を占めている。

表1-1-1 月別発生状況

| 月  | 報告数 | 無症状病原体保有者<br>(再掲) |
|----|-----|-------------------|
| 1  | 16  | 6                 |
| 2  | 16  | 4                 |
| 3  | 20  | 8                 |
| 4  | 15  | 2                 |
| 5  | 12  | 4                 |
| 6  | 18  | 4                 |
| 7  | 17  | 6                 |
| 8  | 8   | 3                 |
| 9  | 18  | 1                 |
| 10 | 11  | 2                 |
| 11 | 13  | 1                 |
| 12 | 8   | 1                 |
| 合計 | 172 | 42                |

表1-1-2 保健所別届出状況

| 保健所名 | 報告数 | 無症状病原体保有者<br>(再掲) |
|------|-----|-------------------|
| 鹿児島市 | 90  | 26                |
| 指宿   | 2   | 1                 |
| 加世田  | 6   | 0                 |
| 伊集院  | 1   | 0                 |
| 川薩   | 9   | 2                 |
| 出水   | 6   | 0                 |
| 大口   | 5   | 1                 |
| 始良   | 20  | 6                 |
| 志布志  | 1   | 0                 |
| 鹿屋   | 14  | 2                 |
| 西之表  | 2   | 0                 |
| 屋久島  | 1   | 0                 |
| 名瀬   | 13  | 4                 |
| 徳之島  | 2   | 0                 |
| 合計   | 172 | 42                |

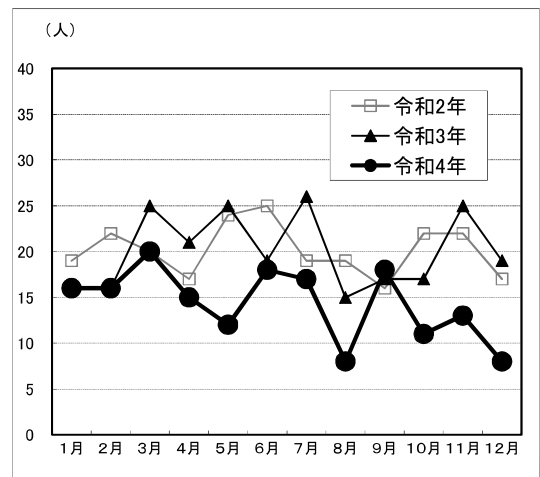


図1-1 令和2～令和4年の結核発生状況

## (3) 三類感染症の発生状況

令和4年の県内における三類感染症の発生状況は、腸管出血性大腸菌感染症35例(図1-2-1, 図1-2-2, 図1-2-3, 図1-2-4, 表1-2-1, 表1-2-2, 表1-2-3)であった。

### ○腸管出血性大腸菌感染症

県内における腸管出血性大腸菌感染症の届出状況は、前年(46例)より11例少ない35例(患者23例, 無症状病原体保有者12例)で、性別は男性15例, 女性20例であった。月別では6月(8例), 7月(6例), 12月(5例)の順に(図1-2-1, 図1-2-3), 血清型別ではO157(19例), O26(7例), O111(4例)の順に多かった。(図1-2-2, 図1-2-4, 表1-2-1)。年齢別では、60歳代(5例), 30歳代, 70歳代(それぞれ4例), 5歳, 10～14歳, 15～19歳, 50歳代(それぞれ3例)の順に多く(表1-2-2), 保健所別では、鹿児島市(10例), 志布志(6例), 徳之島(5例)からの報告が多かった(表1-2-3)。

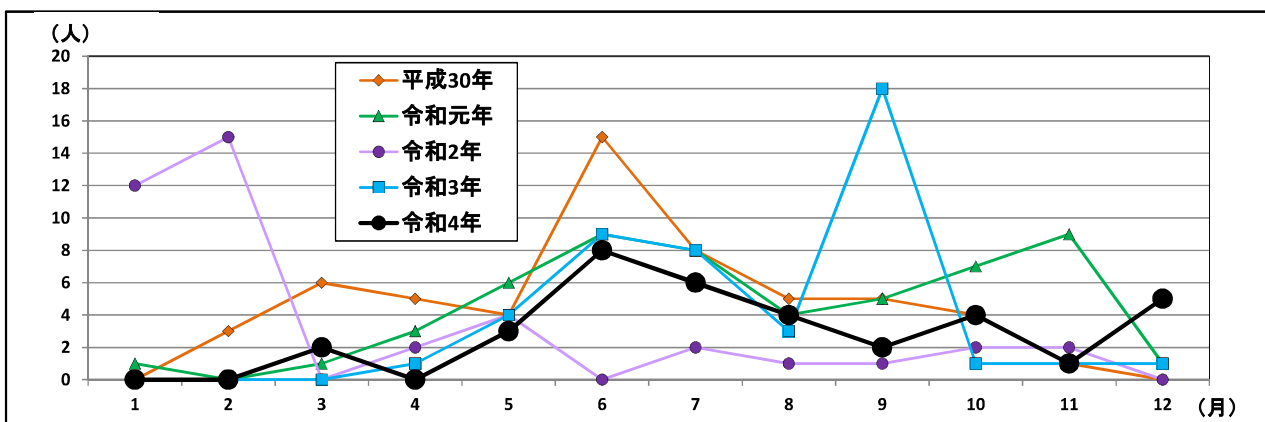


図1-2-1 腸管出血性大腸菌感染症の年別月別患者発生数

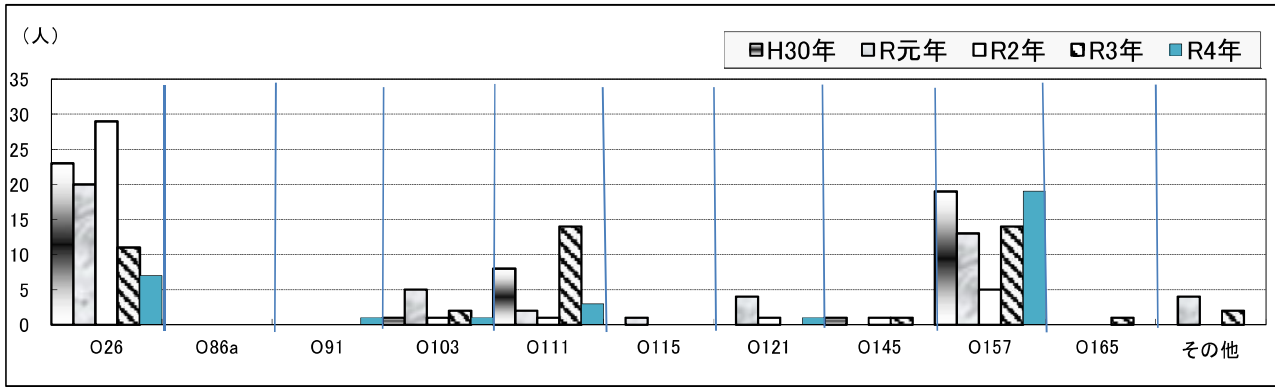


図1-2-2 腸管出血性大腸菌感染症の血清型別

表1-2-1 腸管出血性大腸菌感染症の年別血清型

| 年     | 型別 | O26 | O86a | O91 | O103 | O111 | O115 | O121 | O145 | O157 | O165 | その他 | 不明 | 合計  |
|-------|----|-----|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|-----|----|-----|
| 平成25年 |    | 14  | 0    | 0   | 6    | 5    | 1    | 3    | 0    | 25   | 0    | 8   | 3  | 65  |
| 平成26年 |    | 25  | 0    | 0   | 3    | 9    | 0    | 2    | 1    | 18   | 3    | 4   | 3  | 68  |
| 平成27年 |    | 12  | 0    | 0   | 1    | 6    | 1    | 2    | 0    | 20   | 0    | 2   | 5  | 49  |
| 平成28年 |    | 14  | 0    | 0   | 3    | 7    | 1    | 0    | 0    | 19   | 0    | 2   | 5  | 51  |
| 平成29年 |    | 21  | 1    | 0   | 2    | 14   | 0    | 1    | 1    | 11   | 0    | 0   | 6  | 57  |
| 平成30年 |    | 23  | 0    | 0   | 1    | 8    | 0    | 0    | 1    | 19   | 0    | 0   | 4  | 56  |
| 令和元年  |    | 20  | 0    | 0   | 5    | 2    | 1    | 4    | 0    | 13   | 0    | 4   | 5  | 54  |
| 令和2年  |    | 29  | 0    | 0   | 1    | 1    | 0    | 1    | 1    | 5    | 0    | 0   | 3  | 41  |
| 令和3年  |    | 11  | 0    | 0   | 2    | 14   | 0    | 0    | 1    | 14   | 1    | 2   | 1  | 46  |
| 令和4年  |    | 7   | 0    | 1   | 1    | 3    | 0    | 1    | 0    | 19   | 0    | 0   | 3  | 35  |
| 合計    |    | 176 | 1    | 1   | 25   | 69   | 4    | 14   | 5    | 163  | 4    | 22  | 38 | 522 |

表1-2-2 令和4年における腸管出血性大腸菌感染症の性別及び年齢別報告数

| 性別 | 年齢別 | ～1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 | 8歳 | 9歳 | 10～14歳 | 15～19歳 | 20～29歳 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～69歳 | 70歳以上 | 合計 |
|----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|----|
| 男  |     | 1   | 2  | 0  | 0  | 2  | 0  | 0  | 1  | 0  | 1      | 0      | 1      | 1      | 0      | 0      | 3      | 3     | 15 |
| 女  |     | 1   | 0  | 0  | 0  | 1  | 0  | 2  | 0  | 0  | 2      | 3      | 1      | 3      | 1      | 3      | 2      | 1     | 20 |
| 合計 |     | 2   | 2  | 0  | 0  | 3  | 0  | 2  | 1  | 0  | 3      | 3      | 2      | 4      | 1      | 3      | 5      | 4     | 35 |

表1-2-3 令和4年における腸管出血性大腸菌感染症の保健所別報告数

| 保健所 | 鹿児島市 | 指宿 | 加世田 | 伊集院 | 川薩 | 出水 | 大口 | 始良 | 志布志 | 鹿屋 | 西之表 | 屋久島 | 名瀬 | 徳之島 | 合計 |
|-----|------|----|-----|-----|----|----|----|----|-----|----|-----|-----|----|-----|----|
| 報告数 | 10   | 0  | 2   | 1   | 1  | 1  | 0  | 4  | 6   | 2  | 1   | 0   | 2  | 5   | 35 |

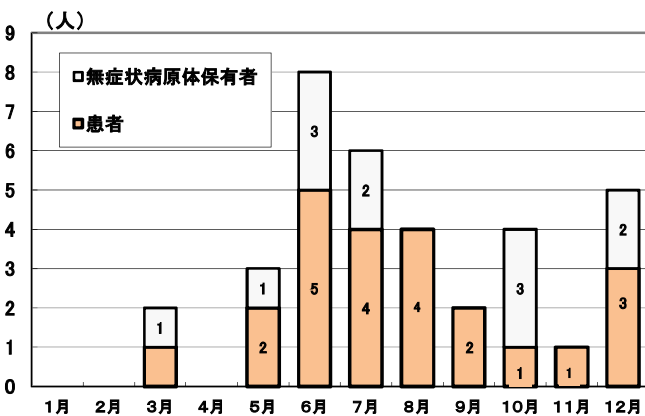


図1-2-3 令和4年における腸管出血性大腸菌感染症の月別・病型別報告数

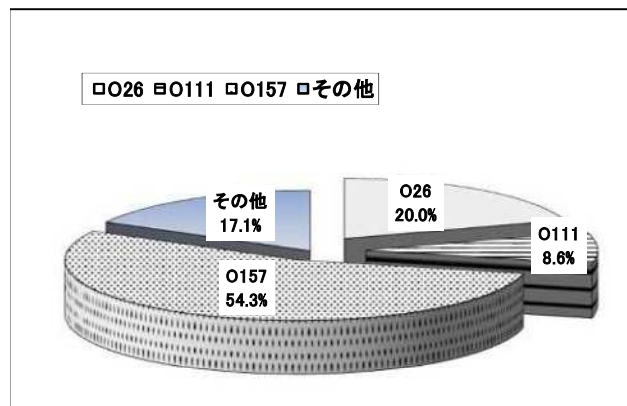


図1-2-4 令和4年における腸管出血性大腸菌感染症の血清型別割合

#### (4) 四類感染症の発生状況

令和4年の県内における四類感染症の報告は146例で、つつが虫病(76例)、レジオネラ症(27例)、日本紅斑熱(22例)、重症熱性血小板減少症候群(9例)、レプトスピラ症(6例)、A型肝炎(4例)、E型肝炎(2例)であった(表1-3)。つつが虫病及び日本紅斑熱の年次別報告数推移を図1-3に示した。

表1-3 四類感染症の発生状況

| 疾患名                | 年     | 平成 | 25  | 26 | 27  | 28  | 29  | 30  | 令和  | 元   | 2   | 3  | 4 |
|--------------------|-------|----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|---|
|                    | つつが虫病 |    | 38  | 41 | 67  | 77  | 66  | 89  | 66  | 92  | 82  | 76 |   |
| レジオネラ症             |       | 3  | 11  | 4  | 19  | 7   | 8   | 17  | 16  | 13  | 27  |    |   |
| 日本紅斑熱              |       | 14 | 14  | 11 | 22  | 18  | 22  | 18  | 18  | 28  | 22  |    |   |
| 重症熱性血小板減少症候群(SFTS) |       | 5  | 4   | 6  | 4   | 11  | 9   | 8   | 3   | 6   | 9   |    |   |
| レプトスピラ症            |       | 3  | 0   | 1  | 5   | 1   | 0   | 2   | 0   | 0   | 6   |    |   |
| A型肝炎               |       | 1  | 34  | 1  | 1   | 1   | 1   | 2   | 3   | 3   | 4   |    |   |
| E型肝炎               |       | 0  | 1   | 0  | 1   | 0   | 3   | 0   | 2   | 3   | 2   |    |   |
| Q熱                 |       | 0  | 0   | 0  | 0   | 0   | 0   | 1   | 0   | 0   | 0   |    |   |
| デング熱               |       | 5  | 0   | 1  | 2   | 0   | 0   | 3   | 0   | 0   | 0   |    |   |
| チクングニア熱            |       | 0  | 0   | 0  | 0   | 0   | 0   | 1   | 0   | 0   | 0   |    |   |
| Bウイルス病             |       | 0  | 0   | 0  | 0   | 0   | 0   | 2   | 0   | 0   | 0   |    |   |
| 合計                 |       | 69 | 105 | 91 | 131 | 104 | 132 | 120 | 134 | 135 | 146 |    |   |

#### ○ つつが虫病

県内におけるつつが虫病的発生状況は、前年(82例)より6例少ない76例であった。都道府県別の報告数(481例)では、前年に引き続き全国第1位であった(2位千葉県(61例)、宮崎県(38例)、4位広島県(29例))。性別では、男性(44例)、女性(32例)で、月別では、12月(37例)、11月(19例)、1月(18例)の順に多かった。年齢別では、80歳以上(20例)、60歳代、70歳代(それぞれ19例)、50歳代(7例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿屋(16例)、始良、志布志(それぞれ12例)、鹿児島市(9例)の順であった。

#### ○ 日本紅斑熱

県内における日本紅斑熱の発生状況は、前年(28例)より6例少ない22例であった。都道府県別の報告数(460例)では、広島県(89例)、三重県(52例)、島根県(42例)、和歌山県(29例)の順に多く、本県は5番目に多かった。性別では、男性が8例、女性が15例で、月別では、6月(5例)、10月(4例)、8月、9月、11月(それぞれ3例)の順に多かった。年齢別では、80歳代以上(9例)、70歳代(8例)、60歳代(4例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿屋(13例)、志布志、名瀬(それぞれ2例)、川薩(1例)の順であった。

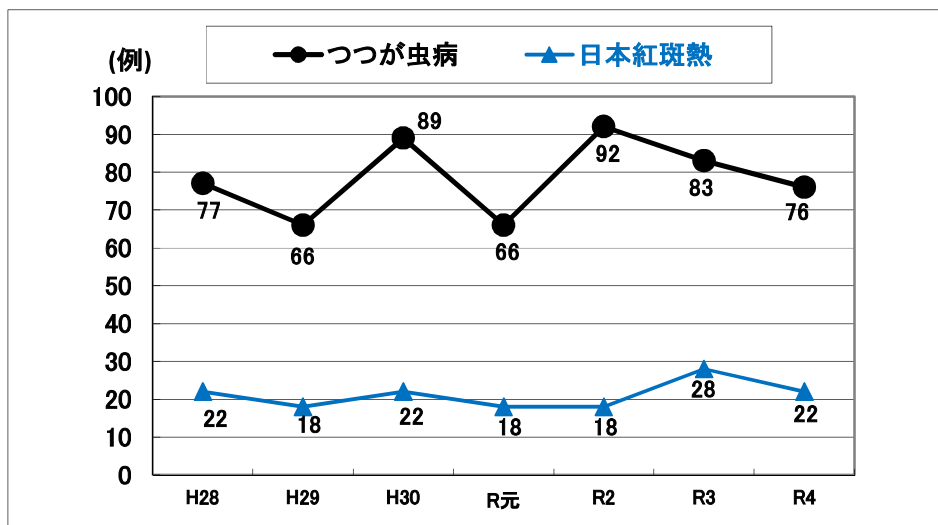


図1-3 つつが虫病及び日本紅斑熱の年別発生状況



## ○ レジオネラ症

県内における届出状況は、前年(13例)より14例多い27例(男性23例, 女性4例)であった。病型別では、すべてが肺炎型であった。月別では、12月(5例), 5月, 7月, 9月(それぞれ4例), 6月(3例)であった。年齢別では、60歳代(11例), 80歳以上(7例), 70歳代(5例)の順に多かった。届出受理保健所別では、鹿児島市(15例), 指宿, 川薩, 大口(それぞれ2例), 伊集院, 出水, 始良, 志布志, 鹿屋, 名瀬(それぞれ1例)の順であった。

## ○ 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

県内における届出状況は、前年(6例)より3例多い9例(男性5例, 女性4例)であった。月別では、4月(4例), 10月(2例), 6月, 7月, 8月(それぞれ1例)であった。年齢別では、50歳代, 70歳代(それぞれ3例), 60歳代(2例), 80歳以上(1例)の順に多かった。

## ○ レプトスピラ症

県内における届出状況は、前年は届出なしであったが、本年は6例(すべて男性)であった。月別では、9月, 10月(それぞれ3例)であった。年齢別では、60歳代(2例), 20歳代, 40歳代, 70歳代(それぞれ1例)で、届出受理保健所別では、鹿児島市(4例), 名瀬(2例)の順であった。

## ○ A型肝炎

県内における届出状況は、前年(3例)より1例多い4例(すべて女性)であった。月別では、4月, 5月, 11月, 12月(それぞれ1例)であった。年齢別では、80歳以上(2例), 10歳代, 70歳代(それぞれ1例)であった。届出受理保健所別では、すべてが鹿児島市であった。

## ○ E型肝炎

県内における届出状況は、前年(3例)より1例少ない2例(男性2例)で、月別では、3月, 6月(それぞれ1例)であった。年齢別では、70歳代, 80歳以上(それぞれ1例)で、届出受理保健所別では、指宿, 川薩(それぞれ1例)であった。

## (5) 五類感染症の発生状況

令和4年の県内における五類感染症の報告は241例で、梅毒(141例)、急性脳炎(19例)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(16例)、侵襲性肺炎球菌感染症(15例)、後天性免疫不全症候群(13例)、クロイツフェルト・ヤコブ病、百日咳(それぞれ5例)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、破傷風、侵襲性インフルエンザ菌感染症、アメーバ赤痢、播種性クリプトコックス症、ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)(それぞれ4例)、水痘(入院例に限る)(3例)の届出があった。(表1-4)。

表1-4 五類感染症の発生状況 (報告数順)

| 疾患名                | 年 | 平成  | 26 | 27  | 28  | 29  | 30  | 令和  | 2   | 3   | 4   |
|--------------------|---|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|                    |   | 25  |    |     |     |     |     | 元   |     |     |     |
| 梅毒                 |   | 7   | 7  | 9   | 18  | 21  | 51  | 55  | 38  | 56  | 141 |
| 急性脳炎               |   | 0   | 7  | 11  | 17  | 21  | 26  | 29  | 14  | 18  | 19  |
| カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 |   |     | 1  | 13  | 15  | 10  | 25  | 27  | 24  | 21  | 16  |
| 侵襲性肺炎球菌感染症         |   | 12  | 24 | 25  | 17  | 24  | 33  | 31  | 26  | 16  | 15  |
| 後天性免疫不全症候群         |   | 12  | 12 | 9   | 11  | 18  | 8   | 13  | 12  | 6   | 13  |
| クロイツフェルト・ヤコブ病      |   | 4   | 4  | 10  | 4   | 6   | 3   | 3   | 4   | 6   | 5   |
| 百日咳                |   |     |    |     |     |     | 153 | 728 | 83  | 3   | 5   |
| 劇症型溶血性レンサ球菌感染症     |   | 2   | 1  | 6   | 3   | 3   | 3   | 7   | 11  | 9   | 4   |
| 破傷風                |   | 4   | 6  | 5   | 4   | 5   | 8   | 5   | 4   | 3   | 4   |
| 侵襲性インフルエンザ菌感染症     |   |     | 1  | 4   | 0   | 2   | 8   | 8   | 2   | 3   | 4   |
| アメーバ赤痢             |   | 5   | 6  | 7   | 7   | 7   | 7   | 6   | 5   | 2   | 4   |
| 播種性クリプトコックス症       |   | 0   | 0  | 1   | 1   | 5   | 1   | 2   | 3   | 2   | 4   |
| ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)  |   | 5   | 8  | 4   | 6   | 4   | 5   | 3   | 2   | 2   | 4   |
| 水痘(入院例に限る)         |   |     | 4  | 4   | 3   | 5   | 3   | 5   | 3   | 2   | 3   |
| 急性弛緩性麻痺            |   |     |    |     |     |     | 3   | 3   | 3   | 0   | 0   |
| 風しん                |   | 386 | 0  | 0   | 1   | 0   | 3   | 2   | 1   | 0   | 0   |
| バンコマイシン耐性腸球菌感染症    |   | 0   | 0  | 1   | 1   | 0   | 0   | 1   | 0   | 0   | 0   |
| 麻しん                |   | 0   | 5  | 0   | 0   | 0   | 0   | 1   | 0   | 0   | 0   |
| クリプトスポリジウム症        |   | 0   | 0  | 0   | 0   | 1   | 2   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 侵襲性髄膜炎菌感染症         |   | 0   | 0  | 0   | 1   | 1   | 2   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 薬剤耐性アシネトバクター感染症    |   | 0   | 0  | 0   | 0   | 1   | 1   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| ジアルジア症             |   | 0   | 0  | 1   | 1   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 合計                 |   | 437 | 86 | 110 | 110 | 134 | 345 | 929 | 235 | 149 | 241 |

### ○ 梅毒

県内における届出状況は、前年(56例)より85例多い141例(男性106例、女性35例)であり、月別では3月(20例)、10月(16例)、8月、11月(それぞれ14例)の順に多かった。

病型別では、早期顕症Ⅰ期(69例)、早期顕症Ⅱ期(52例)、無症状病原体保有者(18例)の順に、年齢別では20歳代(44例)、30歳代(31例)、40歳代(27例)の順に多く、届出受理保健所としては、鹿児島市(92例)、始良(20例)、鹿屋(10例)の順であった。

### ○ 急性脳炎

県内における届出状況は、前年(18例)より1例多い19例(男性10例、女性9例)であり、月別では11月(4例)、6月、8月、9月(それぞれ3例)、2月(2例)であった。年齢別では、10歳未満(10例)、80歳以上(3例)、70歳代(2例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿児島市(17例)、鹿屋、名瀬(それぞれ1例)の順であった。

### ○ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

県内における届出状況は、前年(21例)より5例少ない16例(男性9例、女性7例)であり、月別では7月(4例)、12月(3例)、10月、11月(それぞれ2例)の順に多かった。年齢別では、80歳以上(7例)、70歳代(6例)、10歳未満、50歳代、60歳代(それぞれ1例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿児島市(14例)、川薩、徳之島(それぞれ1例)であった。

## ○ 侵襲性肺炎球菌感染症

県内における届出状況は、前年(16例)より1例少ない15例(男性6例、女性9例)であり、月別では4月(6例)、2月(4例)、10月(2例)の順に多かった。年齢別では80歳以上(7例)、10歳未満(3例)、70歳代(2例)の順に多く、届出受理保健所としては鹿児島市(7例)、鹿屋(4例)、名瀬(2例)の順に多かった。

## ○ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

県内における届出状況は、前年(10例)より6例少ない4例(男性3例、女性1例)で、月別では8月(2例)、2月、9月(それぞれ1例)であった。年齢別では60歳代(2例)、70歳代、80歳以上(それぞれ1例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿児島市(3例)、鹿屋(1例)であった。

## ○ 後天性免疫不全症候群

県内における届出状況は、前年(6例)より7例多い13例(全てが男性)であり、月別では12月(3例)、4月、8月、10月(それぞれ2例)、1月、6月、7月、11月(それぞれ1例)であった。

病型別では無症状病原体保有者7例、患者6例、その他(1例)であった。年齢別では、30歳代(9例)、40歳代(2例)、20歳代、60歳代(それぞれ1例)の順に多く、届出受理保健所としては、鹿児島市(12例)、始良(1例)の順であった。

## ○ クロイツフェルト・ヤコブ病

県内における届出状況は、前年(6例)より1例少ない5例(男性3例、女性2例)で、月別では4月、7月、8月、9月、12月(それぞれ1例)であった。年齢別では60歳(3例)、70歳代、80歳以上(それぞれ1例)の順に多く、届出受理保健所別では、すべてが鹿児島市であった。

## ○ 百日咳

百日咳は、前年(3例)より2例多い5例(男性2例、女性3例)の報告があり、月別では3月、7月、8月、10月、11月(それぞれ1例)の順に多かった。

年齢別では、10歳未満、10歳代(それぞれ2例)、70歳代(1例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿児島市、徳之島(それぞれ2例)、屋久島(1例)の順であった。

## ○ 破傷風

県内における届出状況は、前年(3例)より1例多い4例(男性2例、女性2例)で、月別では9月(2例)、1月、4月(それぞれ1例)であった。年齢別では80歳以上(3例)、60歳代(1例)であった。届出受理保健所別では、鹿児島市(3例)、川薩(1例)であった。

## ○ 侵襲性インフルエンザ感染症

県内における届出状況は、前年(3例)より1例多い4例(すべてが男性)で、月別では12月(2例)、4月、6月(それぞれ1例)であった。年齢別では80歳以上(2例)、50歳代、70歳代(それぞれ1例)の順に多く、届出受理保健所別では、鹿児島市、鹿屋(それぞれ2例)であった。

## ○ アメーバ赤痢

県内における届出状況は、前年(2例)より2例多い4例(すべてが男性)で、月別では2月、3月、9月、11月(それぞれ1例)であった。年齢別では30歳代、40歳代、50歳代、60歳代(それぞれ1例)の順に多く、届出受理保健所別では、川薩(2例)、鹿児島市、鹿屋(それぞれ1例)であった。

## ○ ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)

県内における届出状況は、前年(2例)より2例多い4例(男性3例、女性1例)で、月別では6月、7月、8月、10月(それぞれ1例)であった。病型別ではB型、C型(それぞれ2例)であった。年齢別では30歳代、40歳代、50歳代、60歳代(それぞれ1例)の順に多く、届出受理保健所別では、すべてが

## ○ 水痘(入院例に限る)

県内における届出状況は、前年(2例)より1例多い3例(すべてが女性)で、月別では11月(2例)、3月(1例)であった。年齢別では70歳代(2例)、30歳代(1例)の順に多く、届出受理保健所別では、すべてが鹿児島市であった。

## (6) 新型コロナウイルス感染症の発生状況

### ○ 新型コロナウイルス感染症

令和4年の県内における新型コロナウイルス感染症の届出数は、357913例であった。年代別割合、月別割合については下記図表のとおり（表1-5-1、表1-5-2、図1-5-1、図1-5-2）。

表1-5-1 年代別の届出数及び割合

| 年齢区分  | 届出数（例）  | 割合    |
|-------|---------|-------|
| 10歳未満 | 58,448  | 16.3% |
| 10歳代  | 57,356  | 16.0% |
| 20歳代  | 39,305  | 11.0% |
| 30歳代  | 52,823  | 14.8% |
| 40歳代  | 53,121  | 14.8% |
| 50歳代  | 33,736  | 9.4%  |
| 60歳代  | 27,498  | 7.7%  |
| 70歳代  | 17,677  | 4.9%  |
| 80歳代  | 11,479  | 3.2%  |
| 90歳以上 | 6,470   | 1.8%  |
| 合計    | 357,913 |       |

表1-5-2 月別の届出数及び割合

|     | 届出数（例）  | 割合    |
|-----|---------|-------|
| 1月  | 7,324   | 2.0%  |
| 2月  | 14,606  | 4.1%  |
| 3月  | 12,899  | 3.6%  |
| 4月  | 20,550  | 5.7%  |
| 5月  | 18,303  | 5.1%  |
| 6月  | 10,791  | 3.0%  |
| 7月  | 53,589  | 15.0% |
| 8月  | 111,910 | 31.3% |
| 9月  | 40,063  | 11.2% |
| 10月 | 9,089   | 2.5%  |
| 11月 | 12,835  | 3.6%  |
| 12月 | 45,954  | 12.8% |
| 計   | 357,913 |       |

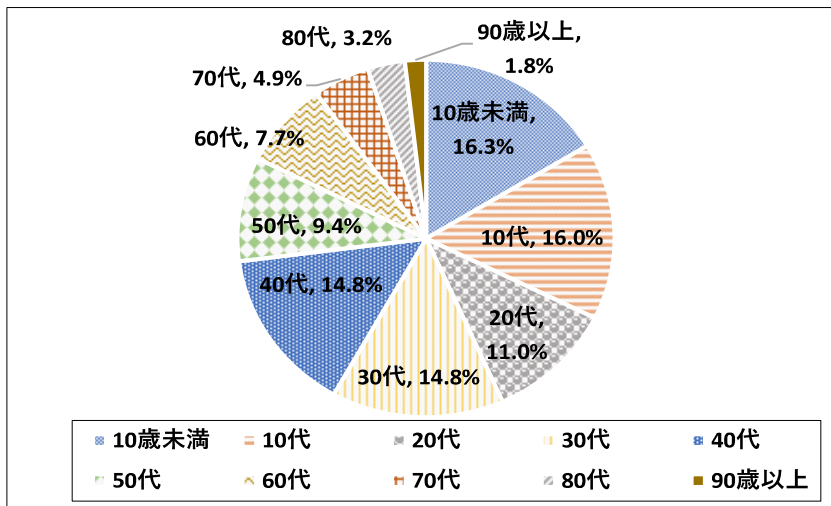


図1-5-1 年代別割合

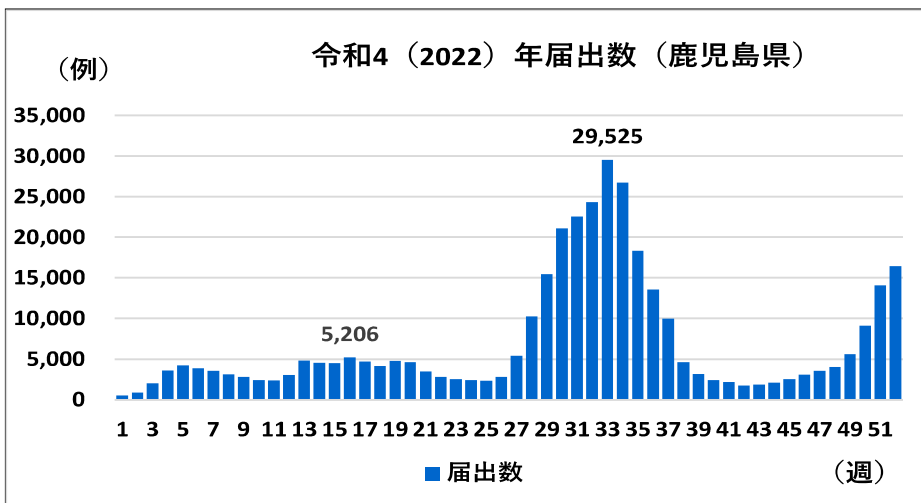


図1-5-2 定点報告当たりの週別推移

## (7) 獣医師が届けを行う感染症の発生状況

出水平野では令和4年11月2日以降、簡易検査で12羽のナベヅルからA型鳥インフルエンザの陽性が確認されていたが、11月7日、出水市の東干拓で回収した野生のナベヅル1羽から高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N1亜型)が確認され、出水市傷病ツル診察センターから出水保健所に届出があった。このことを発端に、その後、ナベヅルからの検出例が続き、同センターから野鳥(ナベヅル)の届出が合計7回あった。

また、鶏舎内の鶏から11月17日高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N1亜型)が確認された。その後の動向については下表にまとめてある。

表1-5-3 本県における高病原性鳥インフルエンザ等の防疫措置状況(令和4年)

|      | 発生場所   | 発生日   | 飼養羽数        | ウイルス型 | 殺処分完了日 | 届出週 |
|------|--------|-------|-------------|-------|--------|-----|
| 1例目  | 出水郡長島町 | 1.13  | 肉用鶏 約11.1万羽 | H5N1  | 1.16   | 2週  |
| 2例目  | 出水市    | 11.17 | 採卵鶏 12万羽    | H5N1  | 11.20  | 46週 |
| 3例目  | 出水市    | 11.23 | 採卵鶏 7.8万羽   | H5N1  | 11.26  | 47週 |
| 4例目  | 出水市    | 11.26 | 採卵鶏 41万羽    | H5N1  | 12.02  | 47週 |
| 5例目  | 出水市    | 12.01 | 採卵鶏 12万羽    | H5N1  | 12.03  | 49週 |
| 6例目  | 出水市    | 12.03 | 採卵鶏 3.4万羽   | H5N1  | 12.05  | 49週 |
| 7例目  | 出水市    | 12.06 | 採卵鶏 6万羽     | H5N1  | 12.08  | 49週 |
| 8例目  | 出水市    | 12.07 | 採卵鶏 6万羽     | H5N1  | 12.09  | 50週 |
| 9例目  | 出水市    | 12.08 | 採卵鶏 22万羽    | H5N1  | 12.11  | 50週 |
| 10例目 | 出水市    | 12.10 | 採卵鶏 9.6万羽   | H5N1  | 12.13  | 50週 |
| 11例目 | 南九州市   | 12.17 | 採卵鶏 3.5万羽   | H5N1  | 12.19  | 51週 |
| 12例目 | 阿久根市   | 12.18 | 採卵鶏 7万羽     | H5N1  | 12.21  | 51週 |
| 13例目 | 阿久根市   | 12.20 | 肉用鶏 3.7万羽   | H5N1  | 12.22  | 52週 |